

# 平成27年国勢調査 - 従業地・通学地による人口・就業状態等集計結果 -

## I 昼夜間人口

### 1 推移

#### 昼間人口・夜間人口ともに減少 -昼夜間人口比率は102.2-

平成27年10月1日国勢調査時の昼間人口（従業地・通学地による人口）は、前回の平成22年国勢調査結果と比べ12,140人減少し、1,571,625人となった。

昼間人口のうち、流入人口（市外に常住し、市内に通勤・通学している者）は、平成7年から減少が続いていたが、平成22年に増加に転じ、平成27年では213,600人となった。

夜間人口（常住地による人口）1,537,272人のうち、自宅外就業者・通学者は769,846人で、そのうち179,247人が流出口（市内に常住し、市外に通勤・通学している者）となっている。自宅外就業者・通学者全体に占める流出口の割合は23.4%であり、増加が続いている。

流入超過数（流入人口－流出口）は34,353人で、平成22年に比べ5,212人減少した。

昼夜間人口比率（昼間人口／夜間人口×100）は、平成22年に比べ0.4ポイント下降し、102.2となった。

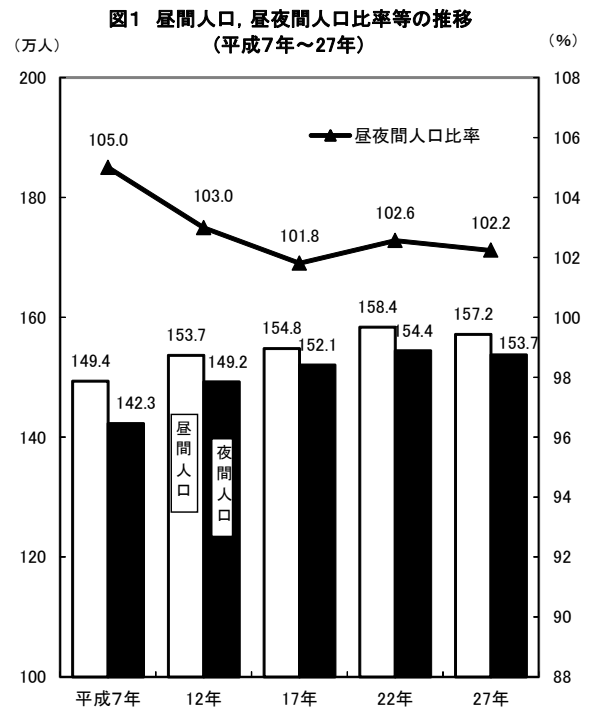


表1 昼間人口、昼夜間人口比率等の推移 (平成7年～27年)

区分	国勢調査結果実数					増減数			
	平成7年	12年	17年	22年	27年	7～12年	12～17年	17～22年	22～27年
昼間人口	1,493,697	1,536,716	1,547,971	1,583,765	<b>1,571,625</b> a)	43,019	11,255	35,794	△ 12,140
うち市外に常住(流入人口)	242,618	219,191	207,498	211,008	<b>213,600</b>	△ 23,427	△ 11,693	3,510	2,592
夜間人口(常住人口)	1,422,563	1,492,143	1,520,551	1,544,200	<b>1,537,272</b> a)b)	69,580	28,408	23,649	△ 6,928
うち自宅外就業者・通学者	850,841	845,061	822,087	803,499	<b>769,846</b> c)	△ 5,780	△ 22,974	△ 18,588	△ 33,653
市内で従業・通学	679,357	670,443	642,009	605,638	<b>585,941</b>	△ 8,914	△ 28,434	△ 36,371	△ 19,697
市外で従業・通学(流出口)	171,484	174,618	180,078	171,443	<b>179,247</b>	3,134	5,460	△ 8,635	7,804
自宅外就業者・通学者総数に占める市外で従業・通学の割合	(20.2)	(20.7)	(21.9)	(22.1)	<b>(23.4)</b>	0.5	1.2	0.2	1.4
流入超過	71,134	44,573	27,420	39,565	<b>34,353</b>	△ 26,561	△ 17,153	12,145	△ 5,212
昼夜間人口比率	105.0	103.0	101.8	102.6	<b>102.2</b>	△ 2.0	△ 1.2	0.8	△ 0.3

注) 平成17年以前は年齢不詳を除く。

a) 労働力状態「不詳」を含む。

b) 従業地・通学地「不詳」で、当地に常住している者を含む。

c) 従業地・通学地「不詳」を含む。

表2 昼間人口、夜間人口及び昼夜間人口比率（平成27年）

区	昼間人口(従業地・通学地による人口)			夜間人口(常住地による人口)									流入超過数	昼夜間人口比率
	総数 a) b)	うち市内他区に常住	うち市外に常住(流入人口)	総数 a) c)	従業も通学もしていない	市内で従業・通学			市外で従業・通学					
						総数	市区		市内他区	総数 (流出人口)	県内他市町	他県		
							自宅	自宅外						
全市	1,571,625	242,820	213,600	1,537,272	565,222	627,090	41,149	343,121	242,820	179,247	97,297	81,950	34,353	102.2
東灘区	202,591	21,766	32,226	213,634	72,748	80,045	5,236	48,883	25,926	39,109	14,788	24,321	△ 6,883	94.8
灘区	131,195	18,544	18,026	136,088	45,840	56,628	3,742	28,545	24,341	17,122	6,893	10,229	904	96.4
中央区	285,642	94,713	79,316	135,153	40,580	49,676	3,868	34,519	11,289	12,251	5,126	7,125	67,065	211.3
兵庫区	124,423	29,796	14,753	106,956	40,433	45,094	3,350	22,194	19,550	7,532	3,718	3,814	7,221	116.3
北区	181,477	7,344	13,718	219,805	84,094	90,130	6,035	53,473	30,622	28,768	18,662	10,106	△ 15,050	82.6
長田区	99,013	19,187	7,576	97,912	39,388	41,454	3,308	18,438	19,708	5,954	3,049	2,905	1,622	101.1
須磨区	143,087	19,605	9,660	162,468	65,800	70,008	3,823	31,392	34,793	13,853	7,131	6,722	△ 4,193	88.1
垂水区	170,244	9,490	6,940	219,474	88,515	90,771	4,759	43,647	42,365	23,295	14,880	8,415	△ 16,355	77.6
西区	233,953	22,375	31,385	245,782	87,824	103,284	7,028	62,030	34,226	31,363	23,050	8,313	22	95.2

a) 労働力状態「不詳」を含む。  
 b) 従業地・通学地「不詳」で、当地に常住している者を含む。  
 c) 従業地・通学地「不詳」を含む。

## 2 年齢別昼夜間人口

### 昼夜間人口比率が一番高い年齢は20～24歳（114.0）

年齢（5歳階級）別に昼間人口、夜間人口、昼夜間人口比率をみると、15歳未満では、流入・流出とも少ないものの、流入人口が上回り、昼夜間人口比率は100.6となっている。

15～19歳及び、20～24歳は、昼夜間人口比率がそれぞれ113.8、114.0と上位2位を占めており、流入人口も、20～24歳が28,672人で最も多い。

40～44歳及び45～49歳でも、それぞれ流入人口が2万人を超えているが、流出人口も2万人を超えており、流出入が多くなっている。

定年を過ぎた65歳以降は流入・流出人口とも少なく、昼間人口と夜間人口の差もほとんどなくなっている。

表3-1 年齢(5歳階級)別 昼間人口、夜間人口、昼夜間人口比率等(平成27年)

年齢 (5歳階級)	昼間人口		夜間人口		昼夜間人口比率
	a) b)	うち流入人口	a) c)	うち流出人口	
総数	1,571,625	213,600	1,537,272	179,247	102.2
15歳未満	186,140	2,886	185,084	1,830	100.6
15～19歳	82,806	22,376	72,765	12,335	113.8
20～24歳	86,861	28,672	76,174	17,985	114.0
25～29歳	79,280	17,177	76,586	14,483	103.5
30～34歳	87,698	17,662	85,533	15,497	102.5
35～39歳	99,324	19,607	97,783	18,066	101.6
40～44歳	121,262	23,961	119,499	22,198	101.5
45～49歳	107,750	21,859	106,176	20,285	101.5
50～54歳	97,654	19,277	97,117	18,740	100.6
55～59歳	90,273	15,759	90,603	16,089	99.6
60～64歳	100,973	13,165	99,731	11,923	101.2
65～69歳	121,293	7,807	120,078	6,592	101.0
70～74歳	97,519	2,420	97,297	2,198	100.2
75～79歳	76,658	671	76,636	649	100.0
80～84歳	61,548	207	61,605	264	99.9
85歳以上	55,792	94	55,811	113	100.0
不詳	18,794	-	18,794	-	100.0

a) 労働力状態「不詳」を含む。  
 b) 従業地・通学地「不詳」で、当地に常住している者を含む。  
 c) 従業地・通学地「不詳」を含む。

### 3 男女別昼夜間人口

#### 男性15～19歳，女性20～24歳で昼夜間人口比率が最も高い

男女別，年齢（5歳階級）別に昼間人口，夜間人口，流入超過数，昼間人口比率をみると，女性は全ての年代において昼夜間人口比率が100以上であるが，男性は50～59歳，80～84歳において100を下回っている。15～24歳では，男女ともに，昼間人口比率がそれぞれ110を上回っており，上位2位を占めている。

流入超過数は，男性が15～19歳で4,319人と最も多く，次いで20～24歳で3,919人となっており，女性が20～24歳で6,768人と最も多く，次いで15～19歳が5,722人となっている。

流入人口，流出人口をみると，男性では，40～44歳で流入人口が最も多くなる（16,031人）が，流出人口も最も多くなり（15,460人），流出入が多くなっている。女性では20～24歳で流入人口，流出人口ともに最も多くなっている。

表3-2 年齢(5歳階級)別 男女別 昼夜間人口比率等 (平成27年)

年齢 (5歳階級)	昼間人口 a)b)				夜間人口 a)c)				流入超過数		昼夜間人口比率	
	男	女	流入人口		男	女	流出人口		男	女	男	女
			男	女			男	女				
総数	728,042	824,789	131,429	82,171	715,867	802,611	119,254	59,993	12,175	22,178	101.7	102.8
15歳未満	94,807	91,333	1,272	1,614	94,580	90,504	1,045	785	227	829	100.2	100.9
15～19歳	41,256	41,550	10,672	11,704	36,937	35,828	6,353	5,982	4,319	5,722	111.7	116.0
20～24	41,008	45,853	12,954	15,718	37,089	39,085	9,035	8,950	3,919	6,768	110.6	117.3
25～29	37,874	41,406	8,757	8,420	36,884	39,702	7,767	6,716	990	1,704	102.7	104.3
30～34	41,734	45,964	10,241	7,421	41,108	44,425	9,615	5,882	626	1,539	101.5	103.5
35～39	47,045	52,279	12,504	7,103	46,698	51,085	12,157	5,909	347	1,194	100.7	102.3
40～44	58,456	62,806	16,031	7,930	57,885	61,614	15,460	6,738	571	1,192	101.0	101.9
45～49	52,024	55,726	15,079	6,780	51,418	54,758	14,473	5,812	606	968	101.2	101.8
50～54	46,307	51,347	13,470	5,807	46,486	50,631	13,649	5,091	△ 179	716	99.6	101.4
55～59	42,185	48,088	11,448	4,311	43,014	47,589	12,277	3,812	△ 829	499	98.1	101.0
60～64	48,628	52,345	10,265	2,900	47,944	51,787	9,581	2,342	684	558	101.4	101.1
65～69	57,994	63,299	6,092	1,715	57,216	62,862	5,314	1,278	778	437	101.4	100.7
70～74	44,743	52,776	1,888	532	44,584	52,713	1,729	469	159	63	100.4	100.1
75～79	33,134	43,524	517	154	33,121	43,515	504	145	13	9	100.0	100.0
80～84	24,161	37,387	161	46	24,210	37,395	210	54	△ 49	△ 8	99.8	100.0
85歳以上	16,686	39,106	78	16	16,693	39,118	85	28	△ 7	△ 12	100.0	100.0

a) 労働力状態「不詳」を含む。

b) 従業地・通学地「不詳」で，当地に常住している者を含む。

c) 従業地・通学地「不詳」を含む。

### 4 区別昼夜間人口

#### 昼夜間人口比率は中央区の211.3が最高，垂水区77.6が最低

就業地としての性格の強い中央区は，昼夜間人口比率が211.3と，昼間人口が夜間人口の2倍を超えている。前回調査と比較すると昼間人口が増加に転じたが，夜間人口も増加したため，昼夜間人口比率は7.8ポイント低下した。

次いで，兵庫区（116.3），長田区（101.1）も昼夜間人口比率が100を上回る。

その他の6区は昼夜間人口比率が100を下回り，ベッドタウンとしての性格が表れている。最も低いのは垂水区（77.6）で，北区（82.6），須磨区（88.1）と続いている。

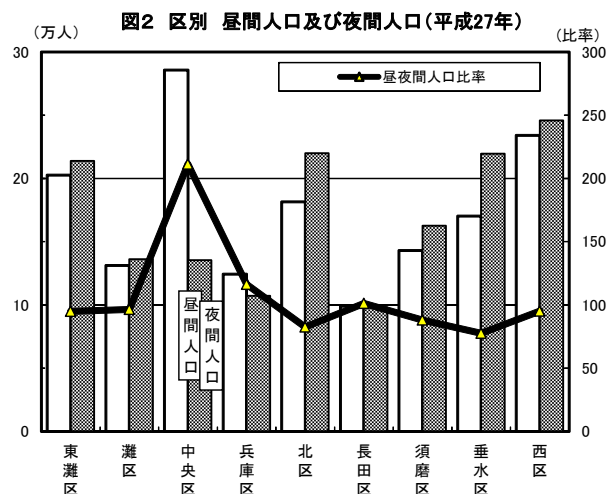


表4 区別 昼間人口、昼夜間人口比率等の推移（平成7年～27年）

区	昼間人口					昼間人口増加率（%）				
	平成7年	12年	17年	22年 a) b)	27年 a) b)	平成7 ～12年	平成12 ～17年	平成17 ～22年	平成22 ～27年	
全市	1,493,697	1,536,716	1,547,971	1,583,765	1,571,625	2.9	0.7	2.3	△	0.8
東灘区	167,417	186,392	194,183	202,756	202,591	11.3	4.2	4.4	△	0.1
灘区	107,605	122,185	125,968	130,753	131,195	13.5	3.1	3.8		0.3
中央区	284,186	280,227	282,275	276,972	285,642	△	1.4	0.7	△	1.9
兵庫区	137,212	138,828	132,729	131,328	124,423	1.2	△	4.4	△	1.1
北区	167,752	170,827	174,104	185,388	181,477	1.8	1.9	6.5	△	2.1
長田区	112,923	110,683	105,132	103,920	99,013	△	2.0	△	5.0	△
須磨区	144,149	144,000	143,674	145,155	143,087	△	0.1	△	0.2	1.0
垂水区	163,604	163,274	164,147	171,422	170,244	△	0.2	0.5	4.4	△
西区	208,849	220,300	225,759	236,071	233,953	5.5	2.5	4.6	△	0.9
区	夜間人口 a) c)					夜間人口増加率（%）				
	平成7年	12年	17年	22年	27年	平成7 ～12年	平成12 ～17年	平成17 ～22年	平成22 ～27年	
全市	1,422,563	1,492,143	1,520,551	1,544,200	1,537,272	4.9	1.9	1.6	△	0.4
東灘区	157,407	190,865	205,819	210,408	213,634	21.3	7.8	2.2		1.5
灘区	97,360	120,494	128,029	133,451	136,088	23.8	6.3	4.2		2.0
中央区	103,218	107,886	116,098	126,393	135,153	4.5	7.6	8.9		6.9
兵庫区	98,799	106,883	105,685	108,304	106,956	8.2	△	1.1	2.5	△
北区	230,443	225,124	225,455	226,836	219,805	△	2.3	0.1	0.6	△
長田区	96,734	105,216	103,619	101,624	97,912	8.8	△	1.5	△	1.9
須磨区	176,488	173,925	170,813	167,475	162,468	△	1.5	△	1.8	△
垂水区	240,087	226,151	221,753	220,411	219,474	△	5.8	△	1.9	△
西区	222,027	235,599	243,280	249,298	245,782	6.1	3.3	2.5	△	1.4
区	昼夜間人口比率					昼夜間人口比率増減（ポイント）				
	平成7年	12年	17年	22年	27年	平成7 ～12年	平成12 ～17年	平成17 ～22年	平成22 ～27年	
全市	105.0	103.0	101.8	102.6	102.2	△	2.0	△	1.2	0.8
東灘区	106.4	97.7	94.3	96.4	94.8	△	8.7	△	3.3	2.0
灘区	110.5	101.4	98.4	98.0	96.4	△	9.1	△	3.0	△
中央区	275.3	259.7	243.1	219.1	211.3	△	15.6	△	16.6	△
兵庫区	138.9	129.9	125.6	121.3	116.3	△	9.0	△	4.3	△
北区	72.8	75.9	77.2	81.7	82.6	3.1	1.3	4.5		0.8
長田区	116.7	105.2	101.5	102.3	101.1	△	11.5	△	3.7	0.8
須磨区	81.7	82.8	84.1	86.7	88.1	1.1	1.3	2.6		1.4
垂水区	68.1	72.2	74.0	77.8	77.6	4.1	1.8	3.8	△	0.2
西区	94.1	93.5	92.8	94.7	95.2	△	0.6	△	0.7	1.9

注) 平成17年以前は年齢「不詳」を除く。

a) 労働力状態「不詳」を含む。

b) 従業地・通学地「不詳」で、当地に常住している者を含む。

c) 従業地・通学地「不詳」を含む。

## 5 大都市の昼夜間人口

### 神戸市の昼夜間人口比率は、大都市の中では10番目

大都市の昼夜間人口比率を比較すると、三大都市圏の中心である大阪市（131.7）、東京都区部（129.8）、名古屋市（112.8）は高い数値を示し、14市が100を上回っている。一方、100を切っているのは相模原市（88.3）、川崎市（88.3）、横浜市（91.7）など、ベッドタウンとしての性格が強い7市である。福岡市（110.8）、京都市（109.0）、仙台市（106.1）も比較的高い数値を示している。

神戸市（102.2）は、静岡市（103.0）、北九州市（102.3）、熊本市（102.2）、新潟市（101.5）と同じく100を少し上回る位置にある。ただ、それらの市に比べて、神戸市は流入人口213,600人（昼間人口に占める割合13.6%）、流出人口179,247人（夜間人口に占める割合11.7%）と、流入・流出の動きが大きい。神戸市は、就業地としての性格を持つとともに、大阪圏のベッドタウンの性格を併せ持つ都市ということができる。

表5 大都市の昼間人口、昼夜間人口比率等(平成27年)

都 市	昼 間 人 口		夜 間 人 口		流 入 超 過 数	昼 夜 間 人 口 比 率
	a)b)	うち流入人口	a)c)	うち流出人口		
神 戸 市	1,571,625	213,600	1,537,272	179,247	34,353	102.2
札 幌 市	1,959,740	79,112	1,952,356	71,728	7,384	100.4
仙 台 市	1,148,389	128,827	1,082,159	62,597	66,230	106.1
さいたま市	1,175,579	220,177	1,263,979	308,577	△ 88,400	93.0
千 葉 市	951,528	174,034	971,882	194,388	△ 20,354	97.9
東京都区部	12,033,592	3,180,851	9,272,740	419,999	2,760,852	129.8
川 崎 市	1,302,487	244,544	1,475,213	417,270	△ 172,726	88.3
横 浜 市	3,416,060	418,231	3,724,844	727,015	△ 308,784	91.7
相 模 原 市	636,218	80,983	720,780	165,545	△ 84,562	88.3
新 潟 市	822,469	51,684	810,157	39,372	12,312	101.5
静 岡 市	726,136	53,081	704,989	31,934	21,147	103.0
浜 松 市	792,639	44,453	797,980	49,794	△ 5,341	99.3
名 古 屋 市	2,589,799	505,769	2,295,638	211,608	294,161	112.8
京 都 市	1,608,216	247,575	1,475,183	114,542	133,033	109.0
大 阪 市	3,543,449	1,092,061	2,691,185	239,797	852,264	131.7
堺 市	785,324	119,321	839,310	173,307	△ 53,986	93.6
岡 山 市	745,199	78,957	719,474	53,232	25,725	103.6
広 島 市	1,211,020	88,983	1,194,034	71,997	16,986	101.4
北 九 州 市	983,517	73,082	961,286	50,851	22,231	102.3
福 岡 市	1,704,218	247,660	1,538,681	82,123	165,537	110.8
熊 本 市	756,852	71,762	740,822	55,732	16,030	102.2
(参考)						
兵 庫 県	5,294,074	837,062	5,534,800	1,077,788	△ 240,726	95.7

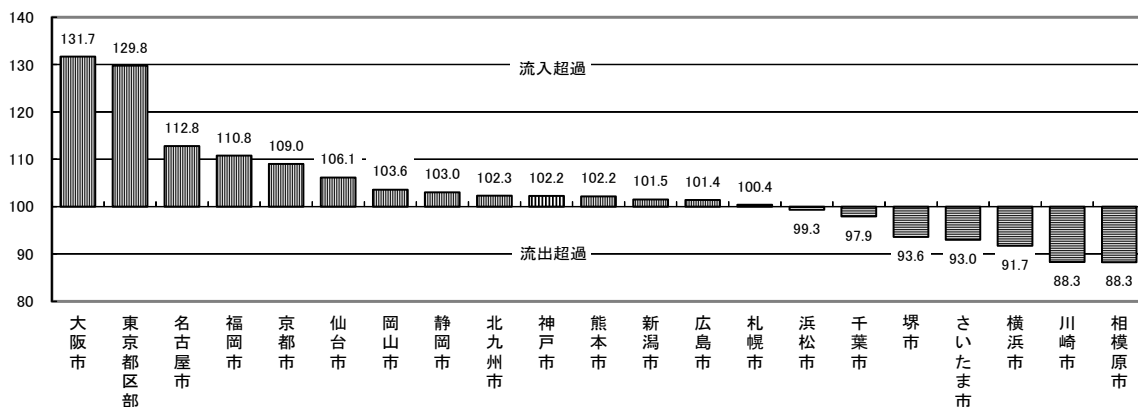
a) 労働力状態「不詳」を含む。

b) 従業地・通学地「不詳」で、当地に常住している者を含む。

c) 従業地・通学地「不詳」を含む。

(基準値=100)

図3 大都市の昼夜間人口比率(平成27年)



## 6 近隣市町の昼夜間人口

### 近隣市町の昼夜間人口比率は、小野市、高砂市を除き100未満

神戸市及び周辺の阪神間6市（※）、東播臨海部（※）、三木・小野・三田（※）を神戸都市圏とみた場合、神戸市以外の神戸都市圏の各市町は、小野市、高砂市を除いて、昼間人口より夜間人口の方が多く、昼夜間人口比率は100を下回っている。大阪市の昼夜間人口比率は131.7であり、これらの都市から神戸市及び大阪市への通勤・通学者が多いことがわかる。

※阪神間6市：芦屋、西宮、宝塚、尼崎、伊丹、川西の各市 東播臨海部：明石、加古川、高砂の各市と稲美町、播磨町  
三木・小野・三田：三木、小野、三田の各市

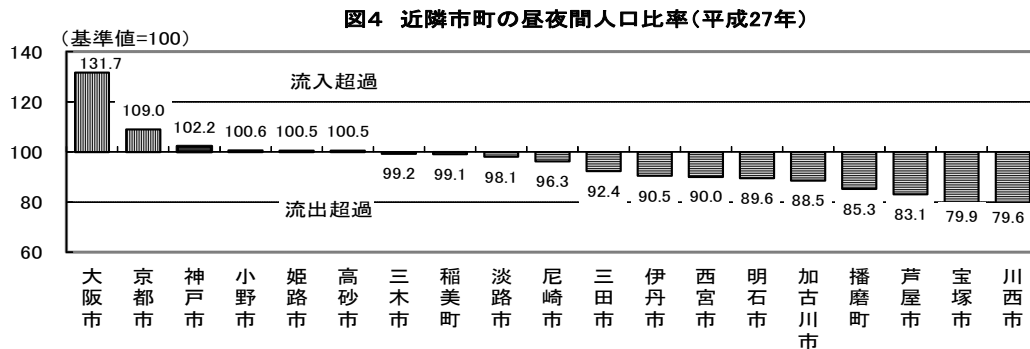


表6 近隣市町の昼間人口、昼夜間人口比率等の推移(平成17年～27年)

市町地域	昼間人口			夜間人口			昼夜間人口比率		
	平成17年	22年 a) b)	27年 a) b)	平成17年	22年 a) c)	27年 a) c)	平成17年	22年	27年
神戸都市圏	3,801,554	3,894,852	<b>3,888,363</b>	4,051,140	4,112,987	<b>4,106,278</b>	93.8	94.7	<b>94.7</b>
神戸市	1,547,971	1,583,765	<b>1,571,625</b>	1,520,551	1,544,200	<b>1,537,272</b>	101.8	102.6	<b>102.2</b>
阪神間6市	1,387,010	1,429,577	<b>1,436,603</b>	1,578,530	1,607,876	<b>1,613,924</b>	87.9	88.9	<b>89.0</b>
尼崎市	440,151	439,358	<b>435,641</b>	458,155	453,748	<b>452,563</b>	96.1	96.8	<b>96.3</b>
西宮市	406,892	430,285	<b>439,258</b>	462,689	482,640	<b>487,850</b>	87.9	89.2	<b>90.0</b>
芦屋市	70,265	74,668	<b>79,245</b>	90,447	93,238	<b>95,350</b>	77.7	80.1	<b>83.1</b>
伊丹市	175,961	178,488	<b>178,195</b>	192,230	196,127	<b>196,883</b>	91.5	91.0	<b>90.5</b>
宝塚市	170,623	181,755	<b>179,751</b>	217,662	225,700	<b>224,903</b>	78.4	80.5	<b>79.9</b>
川西市	123,118	125,023	<b>124,513</b>	157,347	156,423	<b>156,375</b>	78.2	79.9	<b>79.6</b>
東播臨海部	643,336	651,341	<b>650,569</b>	713,969	716,006	<b>716,633</b>	90.1	91.0	<b>90.8</b>
明石市	260,144	262,138	<b>262,799</b>	289,430	290,959	<b>293,409</b>	89.9	90.1	<b>89.6</b>
加古川市	231,285	235,670	<b>236,758</b>	264,443	266,937	<b>267,435</b>	87.5	88.3	<b>88.5</b>
高砂市	92,133	94,513	<b>91,489</b>	94,610	93,901	<b>91,030</b>	97.4	100.7	<b>100.5</b>
稲美町	30,588	30,434	<b>30,755</b>	31,943	31,026	<b>31,020</b>	95.8	98.1	<b>99.1</b>
播磨町	29,186	28,586	<b>28,768</b>	33,543	33,183	<b>33,739</b>	87.0	86.1	<b>85.3</b>
三木・小野・三田	223,237	230,169	<b>229,566</b>	238,090	244,905	<b>238,449</b>	93.8	94.0	<b>96.3</b>
三木市	71,885	78,098	<b>76,592</b>	75,087	81,009	<b>77,178</b>	95.7	96.4	<b>99.2</b>
小野市	49,218	48,973	<b>48,868</b>	49,747	49,680	<b>48,580</b>	98.9	98.6	<b>100.6</b>
三田市	102,134	103,098	<b>104,106</b>	113,256	114,216	<b>112,691</b>	90.2	90.3	<b>92.4</b>
その他									
姫路市	502,176	542,402	<b>538,513</b>	482,140	536,270	<b>535,664</b>	104.2	101.1	<b>100.5</b>
淡路市	47,255	44,772	<b>43,124</b>	48,879	46,459	<b>43,977</b>	96.7	96.4	<b>98.1</b>
京都市	1,582,980	1,599,037	<b>1,608,216</b>	1,460,688	1,474,015	<b>1,475,183</b>	108.4	108.5	<b>109.0</b>
大阪市	3,581,675	3,538,576	<b>3,543,449</b>	2,594,686	2,665,314	<b>2,691,185</b>	138.0	132.8	<b>131.7</b>

注) 平成17年まで年齢「不詳」を除き、京都市は合併市町村を含む。その他の市町については合併を考慮していない。

神戸都市圏：神戸市、阪神間6市、東播臨海部及び三木・小野・三田とする。

a) 労働力状態「不詳」を含む。 b) 従業地・通学地「不詳」で、当地に常住している者を含む。

c) 従業地・通学地「不詳」を含む。

## 7 地域別流入・流出の状況（15歳以上の通勤・通学者）

### 流入人口の31.4%は東播臨海部から、流出人口の39.4%は大阪府へ

15歳以上の通勤・通学者について、地域別の流入・流出の状況をみると、神戸市の基本的な人の流れは引き続き、東播臨海部（流入超過37,271人）をはじめとする周辺市町からの流入、大阪府（流出超過36,420人）への流出となっている。

神戸市への流入人口のうち、東播臨海部に住んでいるものは66,151人（流入人口全体に占める割合31.4%）で一番多く、次に多いのが阪神間6市の63,011人（同29.9%）となっている。県外からの流入人口は、大阪府を中心に44,704人（同21.2%）となっている。

平成22年と比較すると、阪神間6市、東播臨海部、三木・小野・三田からの流入人口割合がいずれも低下し、大阪府など他府県からの流入人口割合が上昇している。

神戸市からの流出人口は、大阪府69,875人（流出人口全体に占める割合39.4%）が最も多く、そのうち大阪市が54,338人（同30.6%）となっている。続いて阪神間6市41,816人（同23.6%）、東播臨海部28,880人（同16.3%）となっている。

平成22年と比較すると、阪神間6市、東播臨海部への流出人口割合がいずれも低下し、他府県などへの流出人口割合が上昇している。

表7 15歳以上 神戸市における地域別 通勤・通学者の推移（平成17年～27年）

市 町・ 地 域	流入人口(15歳以上)			流出人口(15歳以上)			流 入 超 過		
	平成17年	22年	27年	平成17年	22年	27年	平成17年	22年	27年
<b>実 数</b>									
総 数 a)	204,177	207,574	<b>210,714</b>	178,099	169,464	<b>177,417</b>	26,078	38,110	<b>33,297</b>
県 内	164,286	167,121	<b>166,010</b>	93,850	92,354	<b>95,869</b>	70,436	74,767	<b>70,141</b>
阪 神 間 6 市	57,947	62,810	<b>63,011</b>	41,172	41,009	<b>41,816</b>	16,775	21,801	<b>21,195</b>
うち西宮市	25,177	27,797	<b>27,419</b>	20,145	20,053	<b>20,296</b>	5,032	7,744	<b>7,123</b>
東播臨海部	70,606	67,027	<b>66,151</b>	30,285	29,576	<b>28,880</b>	40,321	37,451	<b>37,271</b>
うち明石市	42,688	40,758	<b>40,972</b>	20,445	19,608	<b>20,021</b>	22,243	21,150	<b>20,951</b>
三木・小野・三田	17,192	18,695	<b>17,905</b>	13,328	13,313	<b>14,348</b>	3,864	5,382	<b>3,557</b>
その他の市町	18,541	18,589	<b>18,943</b>	9,065	8,456	<b>10,825</b>	9,476	10,133	<b>8,118</b>
他 府 県	39,891	40,453	<b>44,704</b>	84,249	77,110	<b>81,548</b>	△ 44,358	△ 36,657	△ <b>36,844</b>
京 都 府	2,695	2,859	<b>2,925</b>	3,513	3,495	<b>3,993</b>	△ 818	△ 636	△ <b>1,068</b>
大 阪 府	30,807	31,710	<b>33,455</b>	75,685	70,112	<b>69,875</b>	△ 44,878	△ 38,402	△ <b>36,420</b>
うち大阪市	11,272	11,821	<b>12,139</b>	59,434	55,015	<b>54,338</b>	△ 48,162	△ 43,194	△ <b>42,199</b>
その他の県	6,389	5,884	<b>8,324</b>	5,051	3,503	<b>7,680</b>	1,338	2,381	<b>644</b>
<b>割 合 (%)</b>									
総 数	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	—	—	—
県 内	80.5	80.5	78.8	52.7	54.5	54.0	—	—	—
阪 神 間 6 市	28.4	30.3	29.9	23.1	24.2	23.6	—	—	—
うち西宮市	12.3	13.4	13.0	11.3	11.8	11.4	—	—	—
東播臨海部	34.6	32.3	31.4	17.0	17.5	16.3	—	—	—
うち明石市	20.9	19.6	19.4	11.5	11.6	11.3	—	—	—
三木・小野・三田	8.4	9.0	8.5	7.5	7.9	8.1	—	—	—
その他の市町	9.1	9.0	9.0	5.1	5.0	6.1	—	—	—
他 府 県	19.5	19.5	21.2	47.3	45.5	46.0	—	—	—
京 都 府	1.3	1.4	1.4	2.0	2.1	2.3	—	—	—
大 阪 府	15.1	15.3	15.9	42.5	41.4	39.4	—	—	—
うち大阪市	5.5	5.7	5.8	33.4	32.5	30.6	—	—	—
その他の県	3.1	2.8	4.0	2.8	2.1	4.3	—	—	—

注) 年齢「不詳」を除く。

a) 他市区町村に従業・通学で、従業地・通学地「不詳」を含まない。

## II 就業状態

### 1 市民就業者（常住地による就業者）の状況

#### (1) 市民就業者の働く場所（従業地）

#### 自宅外の自区で働く就業者の割合が最も高い

平成27年国勢調査結果で、神戸市の市民就業者（市内に常住する15歳以上の就業者）は、659,182人で、前回の平成22年調査と比べ、6,300人の減少となった。

市民就業者のうち、神戸市内で就業する者についてみると、「自区で従業」は、263,185人（市民就業者数に占める割合41.6%）で、ほぼ横ばいとなった。一方、「市内他区で従業」は減少傾向にあり、212,244人（同33.5%）となった。これらをあわせた神戸市内で従業する市民就業者数は475,429人（同75.1%）となり、減少傾向にある。

神戸市外で就業する市民についてみると、「県内他市町で従業」は、85,352人（同13.5%）、「他県で従業」は72,446人（同11.4%）であり、実数・割合共に増加した。

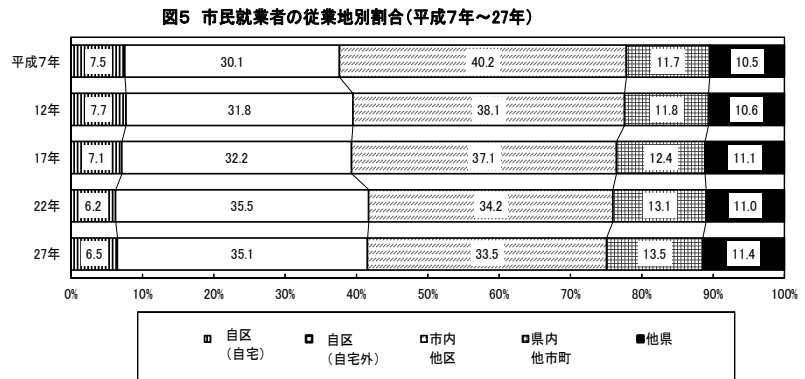


表8 常住地による従業地別 市民就業者の状況(平成7年~27年)

年次区	総数 a)	市内で従業				市外で従業			総数	市内で従業			市外で従業			
		総数	自区		市内他区	総数	県内他市町	他県		総数	自区		市内他区	総数	県内他市町	他県
			自宅	自宅外							自宅	自宅外				
		実数									割合(%)					
平成7年	654,263	509,305	49,283	196,936	263,086	144,958	76,439	68,519	100.0	77.8	7.5	30.1	40.2	22.2	11.7	10.5
12年	673,157	522,372	51,828	214,128	256,416	150,785	79,150	71,635	100.0	77.6	7.7	31.8	38.1	22.4	11.8	10.6
17年	667,301	510,265	47,557	214,882	247,826	157,036	82,738	74,298	100.0	76.5	7.1	32.2	37.1	23.5	12.4	11.1
22年	665,482	476,902	39,179	222,785	214,938	150,910	81,954	68,956	100.0	76.0	6.2	35.5	34.2	24.0	13.1	11.0
<b>27年</b>	<b>659,182</b>	<b>475,429</b>	<b>41,148</b>	<b>222,037</b>	<b>212,244</b>	<b>157,798</b>	<b>85,352</b>	<b>72,446</b>	<b>100.0</b>	<b>75.1</b>	<b>6.5</b>	<b>35.1</b>	<b>33.5</b>	<b>24.9</b>	<b>13.5</b>	<b>11.4</b>
東灘区	94,609	57,515	5,235	30,210	22,070	33,943	12,100	21,843	100.0	62.9	5.7	33.0	24.1	37.1	13.2	23.9
灘区	59,637	42,329	3,742	17,218	21,369	15,084	5,808	9,276	100.0	73.7	6.5	30.0	37.2	26.3	10.1	16.2
中央区	55,982	40,866	3,868	27,377	9,621	10,889	4,378	6,511	100.0	79.0	7.5	52.9	18.6	21.0	8.5	12.6
兵庫区	45,608	36,943	3,350	16,346	17,247	6,687	3,289	3,398	100.0	84.7	7.7	37.5	39.5	15.3	7.5	7.8
北区	95,184	66,829	6,035	34,101	26,693	25,224	16,505	8,719	100.0	72.6	6.6	37.0	29.0	27.4	17.9	9.5
長田区	40,937	33,603	3,308	12,824	17,471	5,233	2,693	2,540	100.0	86.5	8.5	33.0	45.0	13.5	6.9	6.5
須磨区	68,804	54,119	3,823	18,698	31,598	12,155	6,300	5,855	100.0	81.7	5.8	28.2	47.7	18.3	9.5	8.8
垂水区	92,498	68,244	4,759	26,038	37,447	21,128	13,717	7,411	100.0	76.4	5.3	29.1	41.9	23.6	15.3	8.3
西区	105,923	74,981	7,028	39,225	28,728	27,455	20,562	6,893	100.0	73.2	6.9	38.3	28.0	26.8	20.1	6.7

注) 年齢「不詳」を除く。

a) 平成22年以降は従業地「不詳」を含む。



## 市外で働く就業者は24.9%

市外で働く市民就業者157,798人（市民就業者総数に占める割合24.9%）を地域別にみると、大阪府63,792人（同10.1%）が一番多く、次いで阪神間6市が35,241人（同5.6%）、東播臨海部が28,819人（同4.6%）、三木・小野・三田が12,840人（同2.0%）と続いている。

図6 従業地域別 市民就業者数の推移  
(平成7年～27年)

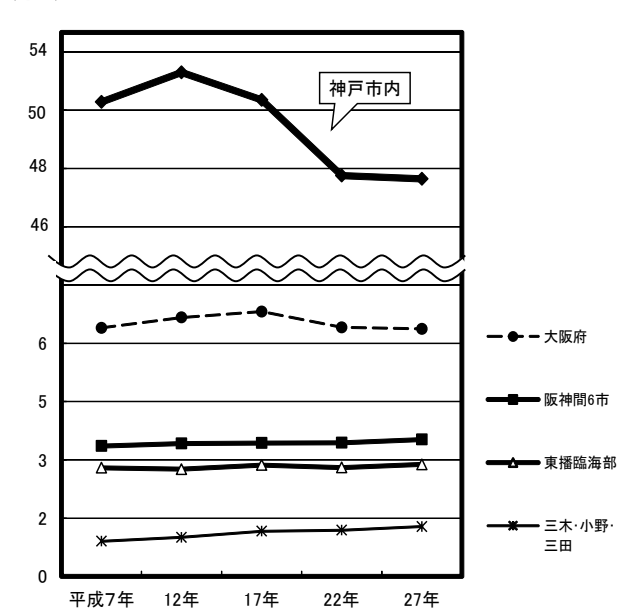


図7 市民就業者の従業市町・地域別割合の推移(平成7年～27年)

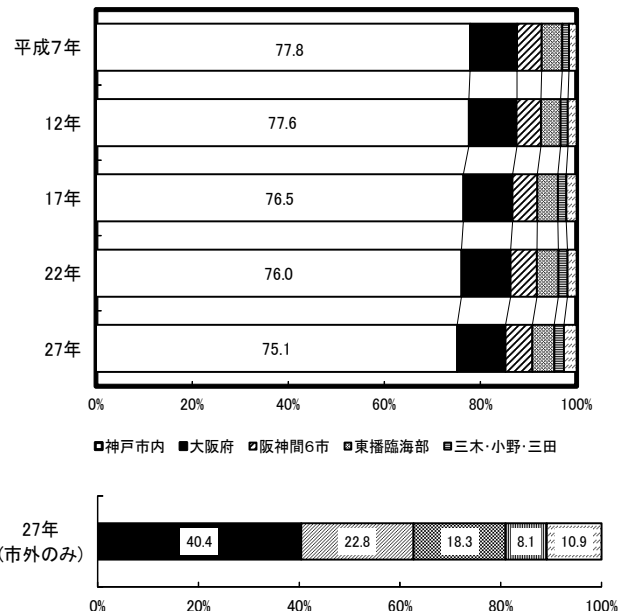


表9 常住地による従業市町・地域別 市民就業者数の推移  
(平成7年～27年)

市町地域	平成7年	12年	17年	22年	27年	平成7年	12年	17年	22年	27年
	実数					割合(%)				
常住する就業者総数 a)	654,263	673,157	667,301	665,482	<b>659,182</b>	100.0	100.0	100.0	100.0	<b>100.0</b>
市内で従業	509,305	522,372	510,265	476,902	<b>475,429</b>	77.8	77.6	76.5	76.0	<b>75.1</b>
市外で従業	144,958	150,785	157,036	150,910	<b>157,798</b>	22.2	22.4	23.5	24.0	<b>24.9</b>
県内他市町で従業	76,439	79,150	82,738	81,954	<b>85,352</b>	11.7	11.8	12.4	13.1	<b>13.5</b>
阪神間6市	33,580	34,203	34,350	34,407	<b>35,241</b>	5.1	5.1	5.1	5.5	<b>5.6</b>
うち西宮市で従業	15,343	15,519	15,396	15,478	<b>15,994</b>	2.3	2.3	2.3	2.5	<b>2.5</b>
東播臨海部	27,955	27,614	28,671	28,023	<b>28,819</b>	4.3	4.1	4.3	4.5	<b>4.6</b>
うち明石市で従業	19,081	18,986	19,378	18,470	<b>18,920</b>	2.9	2.8	2.9	2.9	<b>3.0</b>
三木・小野・三田	9,054	10,050	11,646	11,890	<b>12,840</b>	1.4	1.5	1.7	1.9	<b>2.0</b>
姫路市	3,038	3,571	3,965	4,167	<b>4,623</b>	0.5	0.5	0.6	0.7	<b>0.7</b>
その他の市町	2,812	3,712	4,106	3,467	<b>3,829</b>	0.4	0.6	0.6	0.6	<b>0.6</b>
京都府で従業	1,230	1,583	1,927	1,989	<b>2,297</b>	0.2	0.2	0.3	0.3	<b>0.4</b>
大阪府で従業	63,987	66,634	68,179	64,098	<b>63,792</b>	9.8	9.9	10.2	10.2	<b>10.1</b>
うち大阪市で従業	53,979	55,325	56,510	52,913	<b>52,320</b>	8.3	8.2	8.5	8.4	<b>8.3</b>
その他の県で従業	3,302	3,418	4,192	2,869	<b>6,357</b>	0.5	0.5	0.6	0.5	<b>1.0</b>

注) 年齢「不詳」を除く。

a) 平成22年以降は従業地「不詳」を含む。

## (2) 区別市民就業者の働く場所

### 自区で働く割合が高い区は中央区

東灘区の市民就業者は、神戸市内で従業している割合が9区の中で最も低い62.9%であるが、大阪府で従業（21.5%）、阪神間6市で従業（10.9%）している割合は9区の中で最も高い。

灘区、中央区も大阪府で従業している割合が、それぞれ14.6%、11.4%と東灘区に次いで高く、1割を超えている。

兵庫区、長田区、須磨区の市民就業者は、神戸市内で従業している割合が高く、8割を超えており、最も高い長田区で86.5%である。

自区で従業している割合が高いのは、中央区（60.4%）、兵庫区（45.1%）、長田区（41.5%）である。また、市内他区で従業している割合が高いのは須磨区（47.7%）、長田区（45.0%）、垂水区（41.9%）である。

北区は、市内で従業している割合が東灘区に次いで低く、72.6%である。県内他市町で従業している割合が高く、特に阪神間6市、及び三木・小野・三田で従業している割合が高い。

同様に、垂水区、西区も県内他市町で従業している割合が高く、東播臨海部で従業している割合が西区（11.5%）、垂水区（9.2%）で上位2位を占めている。

図8 区別 従業地域別 市民就業者数の割合(平成27年)

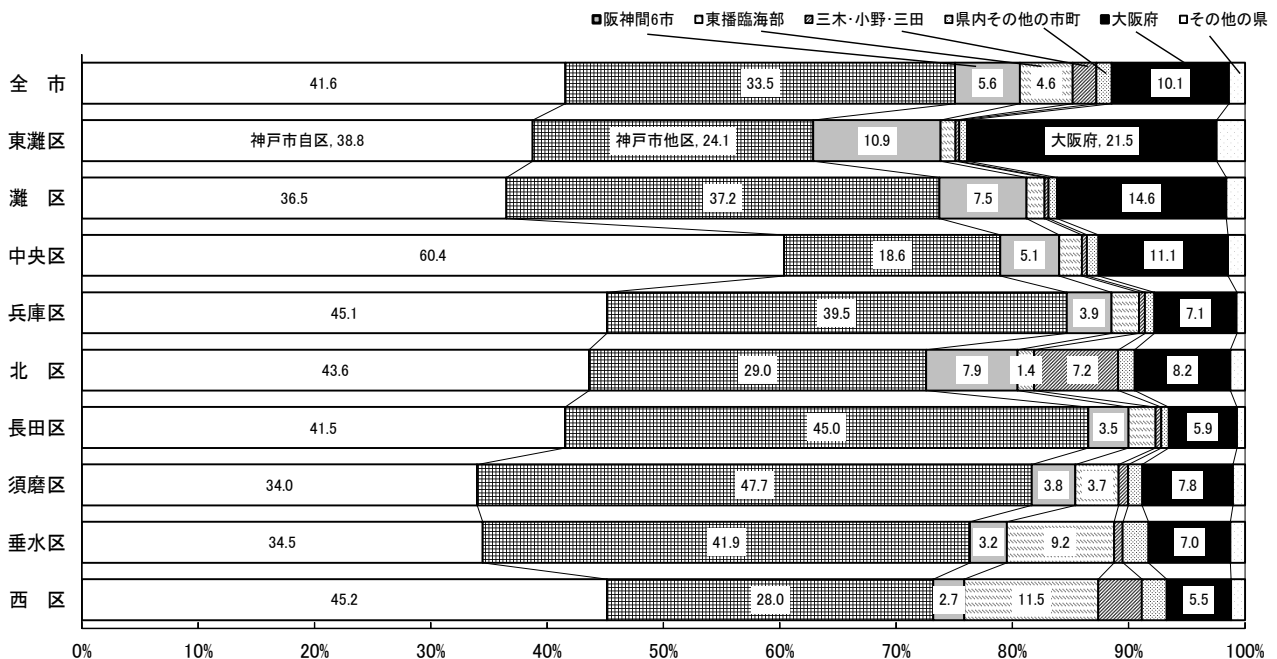


表10 区別 常住地による従業市町・地域別 市民就業者数 (平成27年)

市町・地域	全市	東灘区	灘区	中央区	兵庫区	北区	長田区	須磨区	垂水区	西区
	実 数									
常住する就業者総数 a)	659,182	94,609	59,637	55,982	45,608	95,184	40,937	68,804	92,498	105,923
市内で従業	475,429	57,515	42,329	40,866	36,943	66,829	33,603	54,119	68,244	74,981
自 区	263,185	35,445	20,960	31,245	19,696	40,136	16,132	22,521	30,797	46,253
自 宅	41,148	5,235	3,742	3,868	3,350	6,035	3,308	3,823	4,759	7,028
自 宅 外	222,037	30,210	17,218	27,377	16,346	34,101	12,824	18,698	26,038	39,225
自 市 内 他 区	212,244	22,070	21,369	9,621	17,247	26,693	17,471	31,598	37,447	28,728
市外で従業	157,798	33,943	15,084	10,889	6,687	25,224	5,233	12,155	21,128	27,455
県内他市町で従業	85,352	12,100	5,808	4,378	3,289	16,505	2,693	6,300	13,717	20,562
阪神間6市	35,241	10,008	4,305	2,622	1,683	7,229	1,345	2,492	2,829	2,728
うち西宮市で従業	15,994	4,108	1,839	1,074	672	4,158	591	1,092	1,225	1,235
東播臨海部	28,819	1,178	883	1,012	1,026	1,315	900	2,461	8,242	11,802
うち明石市で従業	18,920	718	548	618	630	757	550	1,464	5,537	8,098
三木・小野・三田	12,840	290	201	225	223	6,654	197	541	665	3,844
姫路市	4,623	403	272	364	237	305	168	506	1,240	1,128
その他の市町	3,829	221	147	155	120	1,002	83	300	741	1,060
京都府で従業	2,297	671	330	276	105	251	80	158	217	209
大阪府で従業	63,792	19,618	8,354	5,754	3,082	7,566	2,274	5,178	6,294	5,672
うち大阪市で従業	52,320	16,223	6,899	4,724	2,558	5,974	1,874	4,235	5,211	4,622
その他の県で従業	6,357	1,554	592	481	211	902	186	519	900	1,012
	割 合 (%)									
常住する就業者総数	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
市内で従業	75.1	62.9	73.7	79.0	84.7	72.6	86.5	81.7	76.4	73.2
自 区	41.6	38.8	36.5	60.4	45.1	43.6	41.5	34.0	34.5	45.2
自 市 内 他 区	33.5	24.1	37.2	18.6	39.5	29.0	45.0	47.7	41.9	28.0
市外で従業	24.9	37.1	26.3	21.0	15.3	27.4	13.5	18.3	23.6	26.8
県内他市町で従業	13.5	13.2	10.1	8.5	7.5	17.9	6.9	9.5	15.3	20.1
阪神間6市	5.6	10.9	7.5	5.1	3.9	7.9	3.5	3.8	3.2	2.7
うち西宮市で従業	2.5	4.5	3.2	2.1	1.5	4.5	1.5	1.6	1.4	1.2
東播臨海部	4.6	1.3	1.5	2.0	2.4	1.4	2.3	3.7	9.2	11.5
うち明石市で従業	3.0	0.8	1.0	1.2	1.4	0.8	1.4	2.2	6.2	7.9
三木・小野・三田	2.0	0.3	0.4	0.4	0.5	7.2	0.5	0.8	0.7	3.8
姫路市	0.7	0.4	0.5	0.7	0.5	0.3	0.4	0.8	1.4	1.1
その他の市町	0.6	0.2	0.3	0.3	0.3	1.1	0.2	0.5	0.8	1.0
京都府で従業	0.4	0.7	0.6	0.5	0.2	0.3	0.2	0.2	0.2	0.2
大阪府で従業	10.1	21.5	14.6	11.1	7.1	8.2	5.9	7.8	7.0	5.5
うち大阪市で従業	8.3	17.7	12.0	9.1	5.9	6.5	4.8	6.4	5.8	4.5
その他の県で従業	1.0	1.7	1.0	0.9	0.5	1.0	0.5	0.8	1.0	1.0

a) 従業地「不詳」を含む。

## 2 市内就業者（従業地による就業者）の状況

### (1) 市内就業者数の推移

#### 中央区以外で減少

平成27年の市内就業者（市内で従業している15歳以上の就業者）は、676,360人で前回調査より11,342人減少したが、市民就業者659,182人を上回る。

市内就業者の最も多い区は中央区の193,914人で、全市の28.7%を占めている。次に多い区は西区の95,253人（全市に占める割合14.1%）で、東灘区、兵庫区、北区と続いている。

平成7年からの推移をみると、北区、垂水区、西区ではこれまで増加していたが、今回減少に転じており、兵庫区、長田区では減少が加速している。中央区では、これまで減少傾向にあったが、今回は増加している。

東灘区、灘区、須磨区は減少と増加を繰り返しているが、今回は減少した。

図9 区別 市内就業者数の推移  
(平成7年～27年)

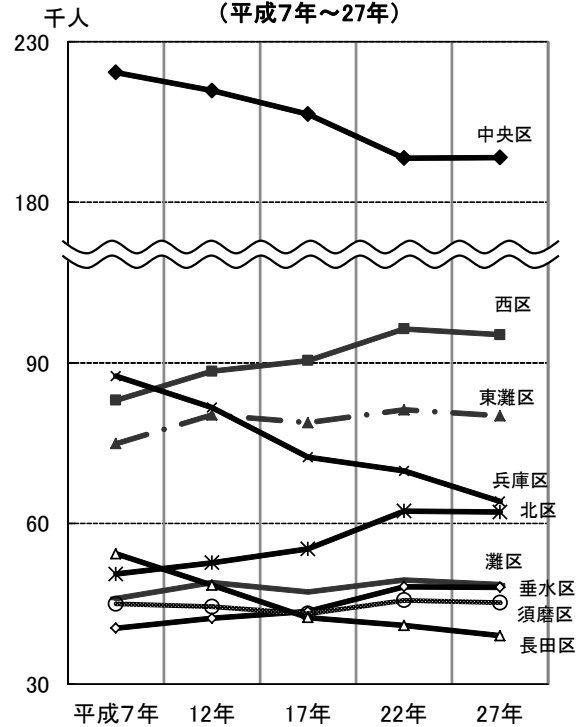


表11 区別 市内就業者数の推移(平成7年～平成27年)

区	平成7年	12年	17年	22年 a)	27年 a)	変化			
						平成7年 ～12年	平成12年 ～17年	平成17年 ～22年	平成22年 ～27年
全 市	702,209	701,954	680,643	687,702	<b>676,360</b>	△ 255	△ 21,311	7,059	△ 11,342
東 灘 区	74,912	80,259	78,824	81,235	<b>80,096</b>	5,347	△ 1,435	2,411	△ 1,139
東 灘 区	45,982	48,950	47,194	49,466	<b>48,585</b>	2,968	△ 1,756	2,272	△ 881
中 央 区	220,424	214,764	207,439	193,728	<b>193,914</b>	△ 5,660	△ 7,325	△ 13,711	186
兵 庫 区	87,528	81,656	72,373	69,800	<b>64,092</b>	△ 5,872	△ 9,283	△ 2,573	△ 5,708
北 区	50,554	52,666	55,238	62,313	<b>62,133</b>	2,112	2,572	7,075	△ 180
長 田 区	54,345	48,478	42,412	40,954	<b>39,019</b>	△ 5,867	△ 6,066	△ 1,458	△ 1,935
須 磨 区	45,015	44,471	43,167	45,671	<b>45,208</b>	△ 544	△ 1,304	2,504	△ 463
垂 水 区	40,448	42,288	43,559	48,177	<b>48,060</b>	1,840	1,271	4,618	△ 117
西 区	83,001	88,422	90,437	96,358	<b>95,253</b>	5,421	2,015	5,921	△ 1,105
(参考)									
昼間人口 昼間人口に対する 市内就業者の割合	1,493,697 (47.0)	1,536,716 (45.7)	1,547,971 (44.0)	1,583,765 (43.4)	<b>1,571,625</b> <b>(43.0)</b>	43,019 △ 1.3	11,255 △ 1.7	35,794 △ 0.5	△ 12,140 △ 0.4

注) 年齢「不詳」を除く。 a) 従業地が「不詳」で、当地に常住している者を含む。

(2) 市内就業者の住む場所（常住地）

市内就業者のうち市内常住者の割合は73.1%

市内就業者(676,360人)がどこに住んでいるのかをみると、神戸市内に常住しているのは475,429人(市内就業者総数に占める割合73.1%)で、うち「自区内に常住」している人は263,190人(同40.5%)、「市内他区に常住」している人は212,244人(同32.6%)であった。

一方、神戸市外に常住している人は「県内他市町に常住」している人が140,421人(同21.6%)、「他県に常住」している人が34,555人(同5.3%)で、前回調査に比べ、合わせて1,845人増加した。

区別では、中央区において、自区以外からの就業者が158,442人で、中央区で従業している就業者に占める割合83.5%と、実数、割合とも9区の中で一番多く、就業地としての性格が強く現れている。その内訳は「市内他区に常住」が87,678人(中央区で従業している就業者に占める割合46.2%)、「県内他市町に常住」53,025人(同28.0%)、「他県に常住」17,739人(同9.4%)となっている。

図10 区別 市内就業者の常住地別割合(平成27年)

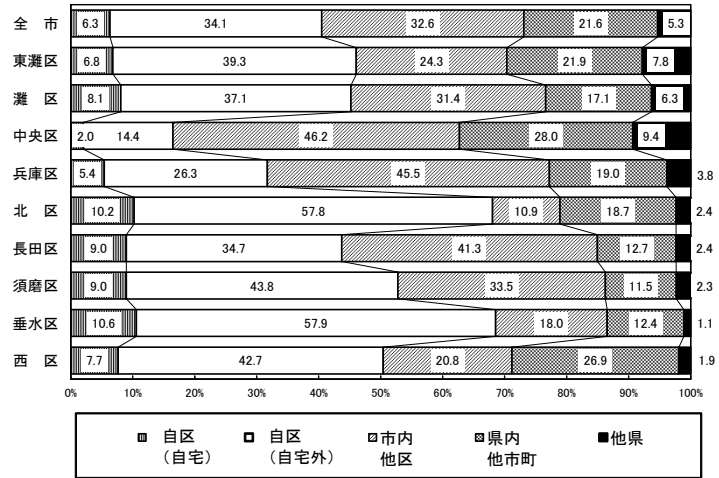


図11 市内就業者の常住地別割合の推移(平成7年~27年)

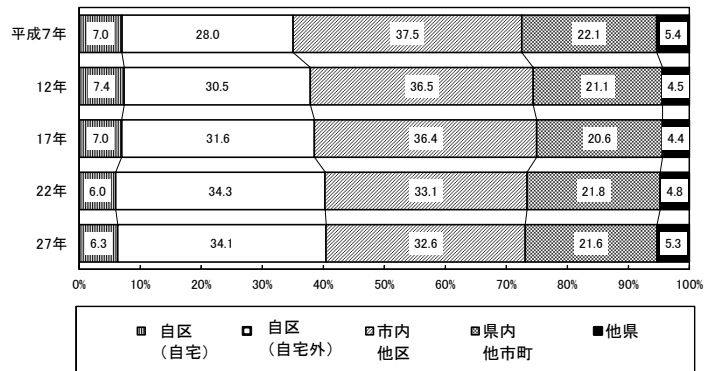


表12 従業地による常住地別 市内就業者の状況(平成7年~27年)

年次	当地で従業する就業者a)	市内に常住					市外に常住					
		自区内に常住		市内他区	県内他市町	他県	自区内に常住		市内他区	県内他市町	他県	
		自宅	自宅外				自宅	自宅外				
		実数					割合(%)					
平成7年	702,209	49,283	196,936	263,086	155,324	37,580	100.0	7.0	28.0	37.5	22.1	5.4
12年	701,954	51,828	214,128	256,416	148,229	31,353	100.0	7.4	30.5	36.5	21.1	4.5
17年	680,643	47,557	214,882	247,826	140,322	30,056	100.0	7.0	31.6	36.4	20.6	4.4
22年	687,702	39,179	222,785	214,938	141,642	31,488	100.0	6.0	34.3	33.1	21.8	4.8
<b>27年</b>	<b>676,360</b>	<b>41,148</b>	<b>222,037</b>	<b>212,244</b>	<b>140,421</b>	<b>34,555</b>	<b>100.0</b>	<b>6.3</b>	<b>34.1</b>	<b>32.6</b>	<b>21.6</b>	<b>5.3</b>
東灘区	80,096	5,235	30,210	18,688	16,813	5,999	100.0	6.8	39.3	24.3	21.9	7.8
灘区	48,585	3,742	17,218	14,557	7,919	2,925	100.0	8.1	37.1	31.4	17.1	6.3
中央区	193,914	3,868	27,377	87,678	53,025	17,739	100.0	2.0	14.4	46.2	28.0	9.4
兵庫区	64,092	3,350	16,346	28,248	11,779	2,391	100.0	5.4	26.3	45.5	19.0	3.8
北区	62,133	6,035	34,101	6,419	11,051	1,396	100.0	10.2	57.8	10.9	18.7	2.4
長田区	39,019	3,308	12,824	15,235	4,683	868	100.0	9.0	34.7	41.3	12.7	2.4
須磨区	45,208	3,823	18,698	14,276	4,890	991	100.0	9.0	43.8	33.5	11.5	2.3
垂水区	48,060	4,759	26,038	8,084	5,563	490	100.0	10.6	57.9	18.0	12.4	1.1
西区	95,253	7,028	39,225	19,059	24,698	1,756	100.0	7.7	42.7	20.8	26.9	1.9

a)平成22年以降は従業地が「不詳」で、当地に常住している者を含む。

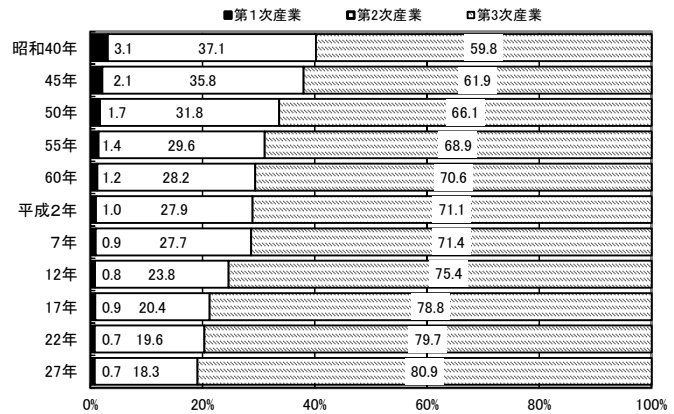
### (3) 産業別市内就業者

#### 上昇を続ける第3次産業の割合

市内就業者を産業分類別にみると、「卸売業, 小売業」の市内就業者120,508人（市内就業者に占める割合17.8%）が最も多く、次いで「医療, 福祉」89,601人（同13.2%）、「製造業」88,591人（同13.1%）と続いている。

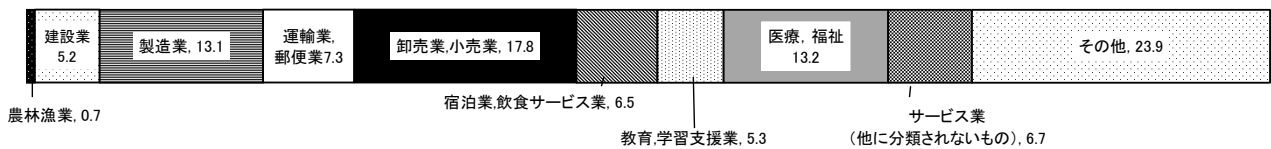
昭和40年からの産業3部門別割合の推移をみると、第1次産業、第2次産業の割合が低下を続ける一方、第3次産業の割合が上昇し続けている。

図12 市内就業者の産業3部門別割合の推移（昭和40年～平成27年）



注) 昭和50年以前は総数に「分類不能の産業」を含んで算出している。

図13 市内就業者の産業大分類別割合（平成27年）



#### 兵庫区, 長田区, 西区は「製造業」が最も高い割合

区別で産業大分類別市内就業者の状況を見ると、兵庫区, 西区, 長田区では「製造業」の割合が最も高く、それぞれ、25.2%, 24.1%, 18.1%となっている。東灘区, 灘区, 中央区, 須磨区では「卸売業, 小売業」の就業者数の割合が最も高い。また、北区, 垂水区では「医療, 福祉」の就業者数の割合が最も高く、それぞれ約2割を占めている。

図14 区別 市内就業者の産業大分類別割合（平成27年）

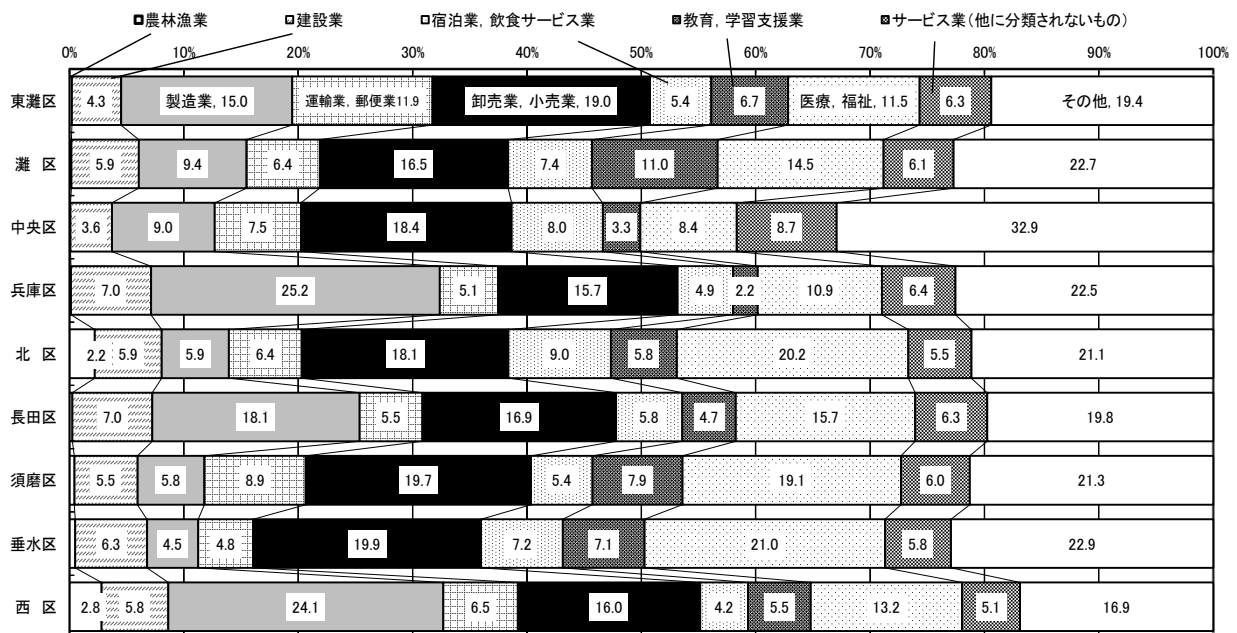


表13 区別 産業大分類別 市内就業者の状況(平成22、27年)

産業大分類	22年	平成27年									
		全市	東灘区	灘区	中央区	兵庫区	北区	長田区	須磨区	垂水区	西区
<b>総数</b>	<b>687,702</b>	<b>676,360</b>	<b>80,096</b>	<b>48,585</b>	<b>193,914</b>	<b>64,092</b>	<b>62,133</b>	<b>39,019</b>	<b>45,208</b>	<b>48,060</b>	<b>95,253</b>
A 農業, 林業	4,531	4,816	160	84	138	54	1,370	45	138	163	2,664
うち 農業	4,483	4,754	155	83	108	50	1,360	45	135	161	2,657
B 漁業	245	232	1	-	28	21	2	49	54	77	-
C 鉱業, 採石業, 砂利採取業	23	20	1	2	3	1	6	-	1	2	4
D 建設業	38,116	35,269	3,451	2,861	7,013	4,496	3,637	2,732	2,498	3,018	5,563
E 製造業	86,714	88,591	11,987	4,570	17,434	16,174	3,652	7,073	2,640	2,150	22,911
F 電気・ガス・熱供給・水道業	3,151	2,969	314	63	1,592	269	193	74	140	194	130
G 情報通信業	15,182	15,301	1,046	952	7,756	2,265	689	448	362	446	1,337
H 運輸業, 郵便業	50,257	49,416	9,816	3,114	14,621	3,268	3,952	2,139	4,007	2,311	6,188
I 卸売業, 小売業	128,387	120,508	15,232	7,999	35,717	10,055	11,233	6,604	8,903	9,571	15,194
J 金融業, 保険業	16,714	15,934	1,048	753	9,582	730	828	547	649	754	1,043
K 不動産業, 物品賃貸業	17,334	18,440	2,539	1,599	6,492	1,356	1,193	902	1,180	1,525	1,654
L 学術研究, 専門・技術サービス業	24,302	24,227	2,262	1,419	10,077	3,602	1,224	780	1,161	1,172	2,530
M 宿泊業, 飲食サービス業	46,257	44,127	4,288	3,572	15,458	3,109	5,569	2,263	2,429	3,442	3,997
N 生活関連サービス業, 娯楽業	23,878	23,393	2,386	1,923	6,769	1,718	3,109	1,062	1,589	2,119	2,718
O 教育, 学習支援業	34,998	36,088	5,394	5,329	6,361	1,388	3,578	1,829	3,560	3,434	5,215
P 医療, 福祉	78,792	89,601	9,201	7,049	16,358	6,965	12,576	6,115	8,637	10,101	12,599
Q 複合サービス事業	2,477	3,067	166	222	413	119	871	225	244	264	543
R サービス業 (他に分類されないもの)	44,090	45,261	5,026	2,975	16,925	4,120	3,428	2,459	2,723	2,775	4,830
S 公務(他に分類されるものを除く)	23,039	22,870	1,199	854	13,403	1,233	1,390	952	1,262	1,180	1,397
T 分類不能の産業	49,215	36,230	4,579	3,245	7,774	3,149	3,633	2,721	3,031	3,362	4,736
<b>総数</b>	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
A 農業, 林業	0.7	0.7	0.2	0.2	0.1	0.1	2.2	0.1	0.3	0.3	2.8
うち 農業	0.7	0.7	0.2	0.2	0.1	0.1	2.2	0.1	0.3	0.3	2.8
B 漁業	0.0	0.0	0.0	-	0.0	0.0	0.0	0.1	0.1	0.2	-
C 鉱業, 採石業, 砂利採取業	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-	0.0	0.0	0.0
D 建設業	5.5	5.2	4.3	5.9	3.6	7.0	5.9	7.0	5.5	6.3	5.8
E 製造業	12.6	13.1	15.0	9.4	9.0	25.2	5.9	18.1	5.8	4.5	24.1
F 電気・ガス・熱供給・水道業	0.5	0.4	0.4	0.1	0.8	0.4	0.3	0.2	0.3	0.4	0.1
G 情報通信業	2.2	2.3	1.3	2.0	4.0	3.5	1.1	1.1	0.8	0.9	1.4
H 運輸業, 郵便業	7.3	7.3	12.3	6.4	7.5	5.1	6.4	5.5	8.9	4.8	6.5
I 卸売業, 小売業	18.7	17.8	19.0	16.5	18.4	15.7	18.1	16.9	19.7	19.9	16.0
J 金融業, 保険業	2.4	2.4	1.3	1.5	4.9	1.1	1.3	1.4	1.4	1.6	1.1
K 不動産業, 物品賃貸業	2.5	2.7	3.2	3.3	3.3	2.1	1.9	2.3	2.6	3.2	1.7
L 学術研究, 専門・技術サービス業	3.5	3.6	2.8	2.9	5.2	5.6	2.0	2.0	2.6	2.4	2.7
M 宿泊業, 飲食サービス業	6.7	6.5	5.4	7.4	8.0	4.9	9.0	5.8	5.4	7.2	4.2
N 生活関連サービス業, 娯楽業	3.5	3.5	3.0	4.0	3.5	2.7	5.0	2.7	3.5	4.4	2.9
O 教育, 学習支援業	5.1	5.3	6.7	11.0	3.3	2.2	5.8	4.7	7.9	7.1	5.5
P 医療, 福祉	11.5	13.2	11.5	14.5	8.4	10.9	20.2	15.7	19.1	21.0	13.2
Q 複合サービス事業	0.4	0.5	0.2	0.5	0.2	0.2	1.4	0.6	0.5	0.5	0.6
R サービス業 (他に分類されないもの)	6.4	6.7	6.3	6.1	8.7	6.4	5.5	6.3	6.0	5.8	5.1
S 公務(他に分類されるものを除く)	3.4	3.4	1.5	1.8	6.9	1.9	2.2	2.4	2.8	2.5	1.5
T 分類不能の産業	7.2	5.4	5.7	6.7	4.0	4.9	5.8	7.0	6.7	7.0	5.0

注) 従業地「不詳」で、当地に常住している者を含む。

### 3 神戸都市圏の通勤状況

#### 明石市の市民就業者の約3割は神戸市へ通勤

神戸市の近隣市町に常住する15歳以上就業者（市・町民就業者）について、神戸市及び大阪市への通勤状況をみると、近隣市町のうち神戸市への通勤率（※）の最も高い市町は明石市で、29.1%であり、次に高い市町は芦屋市の20.9%となっている。次いで、三木市20.2%、稲美町14.6%、播磨町14.1%と続いている。

神戸市への通勤率を前回調査と比較すると、阪神間6市は芦屋市を除いて上昇したが、東播磨海部は全て低下した。三木・小野・三田では、三木市は0.9ポイント低下し、三田市は0.9ポイント上昇した。平成17年からの推移をみると、神戸市都市圏の神戸市への通勤率は、阪神間6市は緩やかな増加傾向、東播磨海部は緩やかな減少傾向にある。

大阪市への通勤率が最も高いのは芦屋市で25.3%である。他の阪神間6市も、伊丹市を除き大阪市への通勤率は20%以上と、神戸市への通勤率より高い割合となっている。

※通勤率＝（神戸市への通勤者数／各市町の市・町民就業者数）×100

※神戸市都市圏：神戸市、阪神間6市、東播磨海部及び三木・小野・三田とする。

図16 神戸市都市圏 市・町民就業者の神戸市への通勤率の推移(平成12年～27年)

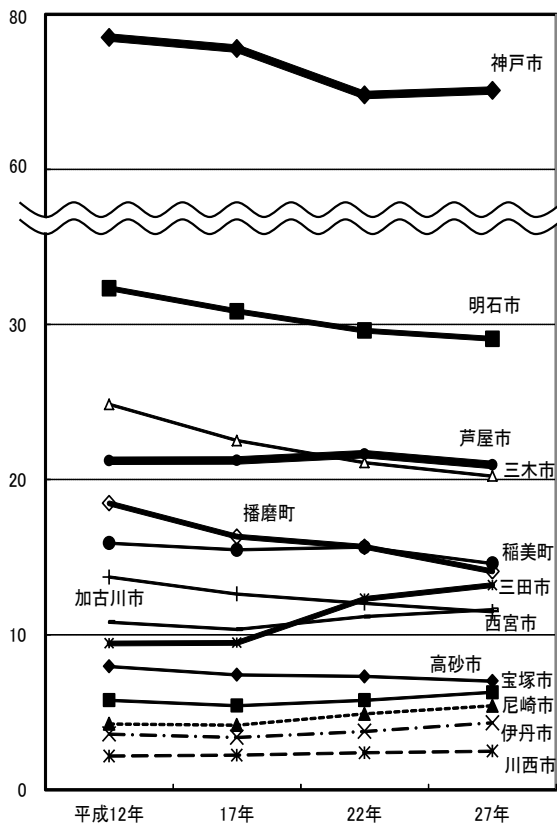


図17 市別 神戸市及び大阪市への通勤率(平成27年)

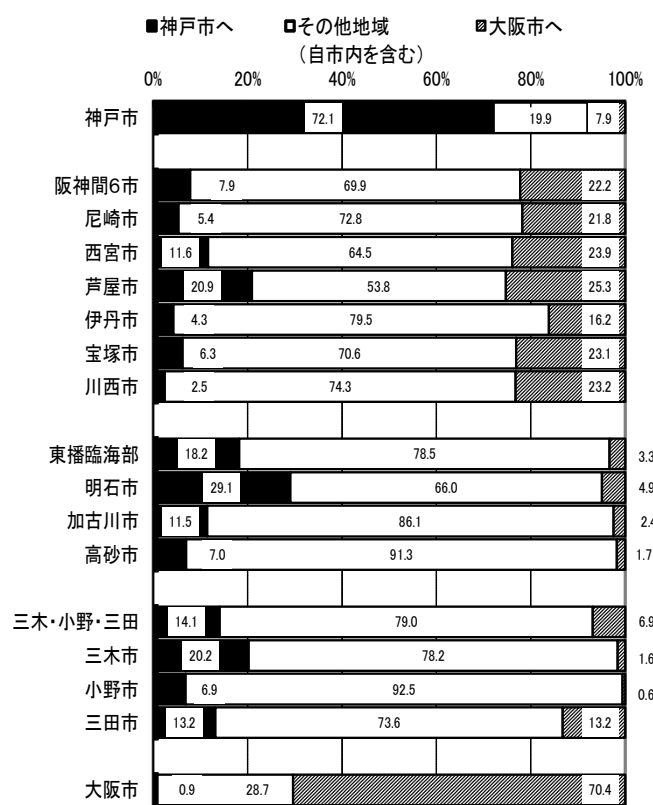




表14 市町別 15歳以上市・町民就業者の神戸市への通勤者数・率及び大阪市への通勤者数・率（平成12～27年）

市町地域	15歳以上市・町民就業者数				神戸市への通勤者数				大阪市への通勤者数			
	平成12年	17年	22年a)	27年a)	平成12年	17年	22年 a)	27年 a)	平成12年	17年	22年 a)	27年 a)
神戸市	673,157	667,301	665,482	659,182	522,372	510,265	476,902	475,429	55,325	56,510	52,913	52,320
阪神間6市	732,015	723,979	709,140	680,972	50,767	49,524	53,252	53,592	174,695	167,344	155,405	149,727
尼崎市	224,589	213,452	204,244	192,674	9,525	8,887	9,991	10,432	47,983	45,614	42,721	41,959
西宮市	207,432	212,374	216,076	204,206	22,423	21,965	24,126	23,718	55,566	54,475	51,680	48,825
芦屋市	39,240	41,310	40,469	39,218	8,320	8,773	8,760	8,210	11,455	12,085	10,849	9,917
伊丹市	93,050	89,794	89,210	86,507	3,342	3,030	3,356	3,730	15,302	14,520	13,901	13,977
宝塚市	97,751	98,493	95,314	93,932	5,637	5,339	5,498	5,896	25,576	23,629	21,461	20,824
川西市	69,953	68,556	63,827	64,435	1,520	1,530	1,521	1,606	18,813	17,021	14,793	14,225
東播磨海部	332,347	322,958	315,797	318,283	68,876	62,771	59,131	58,042	11,472	11,228	10,386	10,501
明石市	133,029	127,638	125,537	127,816	43,014	39,371	37,166	37,158	6,883	6,542	5,979	6,274
加古川市	123,122	121,108	118,972	119,992	16,877	15,286	14,301	13,779	3,169	3,207	3,069	2,935
高砂市	44,474	43,356	41,863	40,860	3,534	3,212	3,059	2,863	776	802	738	706
稲美町	15,886	15,449	14,391	14,364	2,526	2,389	2,251	2,095	258	289	231	237
播磨町	15,836	15,407	15,034	15,251	2,925	2,513	2,354	2,147	386	388	369	349
三木・小野・三田	112,029	114,115	115,670	111,770	15,718	14,872	16,293	15,749	9,425	8,770	8,162	7,693
三木市	37,120	35,938	37,976	35,333	9,221	8,090	8,009	7,147	532	523	621	562
小野市	24,668	24,789	23,994	23,487	1,757	1,723	1,674	1,616	127	147	115	134
三田市	50,241	53,388	53,700	52,950	4,740	5,059	6,610	6,986	8,766	8,100	7,426	6,997
県下その他市町	...	24,187	21,615	20,979	...	877	930	867	...	88	96	96
淡路市	...	24,187	21,615	20,979	...	877	930	867	...	88	96	96
姫路市	221,300	220,468	242,936	245,558	6,486	6,485	7,218	7,433	2,192	2,514	2,484	2,739
大阪府	1,231,235	1,159,848	1,143,391	1,120,195	9,745	9,091	9,928	10,352	1,020,486	953,426	836,663	788,268
大阪市の通勤率	14.1%	14.4%	14.1%	14.1%	1.8%	1.8%	2.1%	2.2%	1.8%	1.7%	1.6%	1.5%
神戸市の通勤率	77.6%	76.5%	71.7%	72.1%	77.6%	76.5%	71.7%	72.1%	8.2%	8.5%	8.0%	7.9%
阪神間6市の通勤率	6.8%	6.8%	7.5%	7.9%	6.9%	6.8%	7.5%	7.9%	23.9%	23.1%	21.9%	22.0%
尼崎市	4.2%	4.2%	4.9%	5.4%	4.2%	4.2%	4.9%	5.4%	21.4%	21.4%	20.9%	21.8%
西宮市	10.8%	10.3%	11.2%	11.6%	10.8%	10.3%	11.2%	11.6%	26.8%	25.7%	23.9%	23.9%
芦屋市	21.2%	21.2%	21.6%	20.9%	21.2%	21.2%	21.6%	20.9%	29.2%	29.3%	26.8%	25.3%
伊丹市	3.6%	3.4%	3.8%	4.3%	3.6%	3.4%	3.8%	4.3%	16.4%	16.2%	15.6%	16.2%
宝塚市	5.8%	5.4%	5.8%	6.3%	5.8%	5.4%	5.8%	6.3%	26.2%	24.0%	22.5%	22.2%
川西市	2.2%	2.2%	2.4%	2.5%	2.2%	2.2%	2.4%	2.5%	26.9%	24.8%	23.2%	22.1%
東播磨海部	20.7%	19.4%	18.7%	18.2%	20.7%	19.4%	18.7%	18.2%	3.5%	3.5%	3.3%	3.3%
明石市	32.3%	30.8%	29.6%	29.1%	32.3%	30.8%	29.6%	29.1%	5.2%	5.1%	4.8%	4.9%
加古川市	13.7%	12.6%	12.0%	11.5%	13.7%	12.6%	12.0%	11.5%	2.6%	2.6%	2.6%	2.4%
高砂市	7.9%	7.4%	7.3%	7.0%	7.9%	7.4%	7.3%	7.0%	1.7%	1.8%	1.8%	1.7%
稲美町	15.9%	15.5%	15.6%	14.6%	15.9%	15.5%	15.6%	14.6%	1.6%	1.9%	1.6%	1.6%
播磨町	18.5%	16.3%	15.7%	14.1%	18.5%	16.3%	15.7%	14.1%	2.4%	2.5%	2.5%	2.3%
三木・小野・三田	14.0%	13.0%	14.1%	14.1%	14.0%	13.0%	14.1%	14.1%	8.4%	7.7%	7.1%	6.9%
三木市	24.8%	22.5%	21.1%	20.2%	24.8%	22.5%	21.1%	20.2%	1.4%	1.5%	1.6%	1.6%
小野市	7.1%	7.0%	7.0%	6.9%	7.1%	7.0%	7.0%	6.9%	0.5%	0.6%	0.5%	0.6%
三田市	9.4%	9.5%	12.3%	13.2%	9.4%	9.5%	12.3%	13.2%	17.4%	15.2%	13.8%	13.2%
県下その他市町	...	3.6%	4.3%	4.1%	...	3.6%	4.3%	4.1%	...	0.4%	0.4%	0.5%
淡路市	...	3.6%	4.3%	4.1%	...	3.6%	4.3%	4.1%	...	0.4%	0.4%	0.5%
姫路市	2.9%	2.9%	3.0%	3.0%	2.9%	2.9%	3.0%	3.0%	1.0%	1.1%	1.0%	1.1%
大阪府	0.8%	0.8%	0.9%	0.9%	0.8%	0.8%	0.9%	0.9%	82.9%	82.2%	73.2%	70.4%
大阪市の通勤率	14.1%	14.4%	14.1%	14.1%	1.8%	1.8%	2.1%	2.2%	1.8%	1.7%	1.6%	1.5%

注) 年齢不詳を除く。また、市町村合併については考慮していない。

内は、5%通勤圏の市町である。

a) 従業地「不詳」で、当地に常住している者を含む。